

# 施策マネジメントシート

作成日 平成 30 年 8 月 31 日

施策	No. 18	子どもたちの個性を尊重する学校づくり				
施策 主管課	学校教育課	氏名	田草川 淳	施策 関係課	教育総務課、芦川支所	

## 1. 現状把握 Plan→Do

### (1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ◇児童、生徒	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 児童・生徒数 人
	b c
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇学力が身につく、学んだことを実生活に生かせるようになる。 ◇しなやかな心と、丈夫な身体が生まれ、生きる力となる。 ◇充実した環境の下で学ぶことにより、人や地域を愛する人間に育つ。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)
	d 標準学力検査(NRT)全国平均値達成率(平均達成学級数/受検学級数) %
	e 道徳性意識調査の値(小6) 【H26年度で終了】 点
	f 新体力テストの合計点の平均値(中2男子) 点
	g 「学校は楽しいと思う」児童の割合(小5) %
h	
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇確かな学力を測るものとして「標準学力検査(NRT)全国平均値達成率」◇しなやかな心や測るものとして「道徳性意識調査の値(小6)(H26年度で終了)」◇丈夫な身体を測るものとして「新体力テスト合計点平均値(中2男子)」◇充実した環境のもとで学べているかを測るものとして「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合(教育白書)	⑥ 成果指標の取得方法 ◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率: 学力検査実施結果資料 ◇道徳性意識調査の値(小6): 学校教育課資料(H26年度で終了) ◇新体力テスト合計点の平均値(中2男子): 山梨県スポーツ健康課資料 ◇「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合: 教育白書資料

			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
			実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	最終目標	
対象 指標	a 児童・生徒数	人	見込み値	6,098	5,965	5,830	5,769	5,494	5,438	5,355
		実績値	6,140	5,921	5,828	5,602	5,404	5,315	5,155	
	b	見込み値								
		実績値								
	c	見込み値								
		実績値								
成果 指標	d 標準学力検査(NRT)全国平均値達成率(平均達成学級数/受検学級数)	%	成り行き値	70.0	70.0	60.0	60.0	61.0	61.0	62.0
		目標値	72.0	72.0	62.0	62.0	63.0	63.0	64.0	
		実績値	71.4	60.0	67.0	69.0	61.0	56.0	67.6	
	e 道徳性意識調査の値(小6) 【H26年度で終了】	点	成り行き値		70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
		目標値			80.0	80.5	80.5	81.0	81.0	81.5
		実績値	未実施		80.3	85.3	84.2	-	-	-
	f 新体力テストの合計点の平均値(中2男子)	点	成り行き値	42	43	43	43	43	43	43
		目標値	41.7	43.5	43.5	43.6	43.6	43.7	43.7	
		実績値	43.2	42.2	43.1	41.9	41.4	43.7	43.3	
	g 「学校は楽しいと思う」児童の割合(小5)	%	成り行き値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
		目標値	86.0	86.0	91.0	91.0	91.5	91.5	91.5	
		実績値	85.4	90.9	85.6	89.3	88.5	85.8	88.7	
h	成り行き値									
	目標値									
	実績値									
施策コスト	事務事業数		本			92	96	96	93	93
	事業費 (A)		千円	1,067,143	1,070,724	1,906,135	1,876,961	2,087,164	1,287,306	1,254,809
	うち一般財源 (A')		千円	1,003,756	1,015,096	1,202,636	1,128,795	1,232,594	1,097,849	1,081,449
	人件費 (B)		千円	95,267	84,263	80,163	82,648	242,824	241,494	367,598
	トータルコスト (A+B) (C)		千円	1,162,410	1,154,987	1,986,298	1,959,609	2,329,988	1,528,800	1,622,407
施策に係る事務事業コストの合計	うち一財 (A'+B) (C')		千円	1,099,023	1,099,359	1,282,799	1,211,443	1,475,418	1,339,343	1,449,047

### (3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

◇後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。  
 ◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率: 成り行き値は、H24年度実績値を基に25、26年度を設定し、以降、2年間で1ポイントの増とすることで設定。目標値は、H24年度実績値を基に25、26年度を2ポイント増で設定し、以降、成り行き値と同様にH23年度実績値を基に2年間で1ポイントの増とすることで設定。  
 ◇道徳性意識調査の値(小6): 成り行き値は、全20問に中間指標(どちらともいえない)につけた場合、60点となるため、10点増の70点で設定した。目標値はH24年度実績から2年間で0.5点ずつ増とすることで設定。(道徳性意識調査はH24年度から実施。H27年度以降、道徳は教科化され評価することになった。但し、文部科学省より数値をもって道徳を評価することは不適切であるとされたため、これに準じ道徳性意識調査により道徳性を数値化することは、H26年度をもって終了する。)  
 ◇新体力テストに於ける合計点平均値: 成り行き値は、H23年度実績を基に43.0点で据え置いた。目標値は、H23年度実績値を基に2年間で0.1ポイントの増とすることで設定。  
 ◇「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合: 成り行き値は、過去の平均値85.0%を据え置くこととした。目標値は、H24年度実績値を基に25、26年度を91.0%とし、27年度以降は91.5%とした。

### (4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇保護者や地域は、学校の取組みを理解し、協力する。地域で見守る。	イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと) ◇学校…教育の実施。給食の実施。地域、保護者との連携 ◇市・市教委…教員の資質向上、市費負担の講師・職員の配置、教育施設の整備、運営費補助、スクールバスの運営、学校給食の運営、通学路の合同点検、不登校児童等の自立支援 ◇県教委…県費教職員の配置、保健衛生の維持・確保
---	--

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

<p>◇H24年小中学校普通教室にエアコンを設置した。          ◇H25年石和中学校給食棟完成。笛吹市学校教育ビジョン改訂          ◇H26年度から、指導主事2名配置◇H29年度から就学援助費の就学前支給開始予定</p>	<p>◇市民…学校教育に重点的に取り組むべき。教職員の意識改革と、家庭・地域・学校との連携強化が重要。給食に地場産物を使用して欲しい。学校施設の老朽化や時代の要求により改修が必要という意見がある。障害を持った子ども、普通学校で教育して欲しいとの要望がある。          ◇市民・議会…通学路の安全対策をして欲しいとの要望がある。          ◇教職員…教員数を増やして欲しいとの要望がある。</p>
--	---

2. H29年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

<p>① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標値より高い実績値だった</li> <li>● 目標値どおりの実績値だった</li> <li>○ 目標値より低い実績値だった</li> </ul>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率は、目標値64.0%に対し、実績値は67.6%と、昨年度に比べ高い数値となった。実施時期が年度末に変更され、実施時期も余裕を持って行えるよう配慮したことで、数値が上昇したものと考えられる。          ◇新体力テスト総合点平均値(中2男子)は、目標値43.7点に対し、実績値は43.3点と目標値より若干低い実績値であった。(その年度ごとの学年の特徴により数値の増減はあるが、体力向上に継続して努力している成果が現れているものと考えられる。)          ◇「学校は楽しいと思う」児童(5年生)の割合は、目標値91.5%に対し、実績値88.7%と低い数値であった。(各学校における様々な要素が影響するので、この年度だけでは成果は計れない。目標値に比べると低いが、決して低い値ではないと考える。)</p>
<p>② 時系列比較 (過去3か年の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成果がかなり向上した</li> <li>● 成果がどちらかと言えば向上した</li> <li>○ 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</li> <li>○ 成果がどちらかと言えば低下した</li> <li>○ 成果がかなり低下した</li> </ul>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率は、H27年度61.0%、H28年度56.0%と低下傾向になっていたが、本年度になり67.6%と上昇し、目標値を超える結果となった。どの学校も新学習指導要領への移行を視野に入れ、学力の定着に努力しており、授業内容の改善や学習規律などに努めている。          ◇新体力テスト総合点平均値(中2男子)は、H27年度41.4点、H28年度43.7点と上昇したものの、H29年度は43.3点とやや減少に転じた。どの学校も体力向上に努力はしているが、その年度ごとの学年の特徴により数値の増減はあると考える。          ◇「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合は、H27年度88.5%、H28年度85.8%と減少傾向であったが、H29年度には88.7%と上昇に転じた。(どの小中学校も継続して児童生徒が楽しく学べる学校環境の整備に努めている結果である。)</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他自治体と比べてかなり高い成果水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である</li> <li>● 他自治体と比べてほぼ同水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてかなり低い成果水準である</li> </ul> <p>比較自治体名</p> <p>山梨県内市町村</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇標準学力検査(NRT)全国平均値達成率は、笛吹市独自のものであり比較できない。          ◇新体力テスト総合点平均値(中2男子)は、山梨県の平均値は42.9点であったのに対し、笛吹市は43.3点と高い数値であった。          ◇「学校は楽しいと思う」児童生徒の割合は、笛吹市独自のものであり比較できない。          ◇市費負担教職員の配置数は34人で同規模市と同様である。教職員一人当たりの児童・生徒数は152人であり、きめ細やかな指導が行われている。(県内でも先進的な導入であった。現在は県内他市も導入が進んでいる。)          ◇笛吹市小中学校普通教室にエアコンが設置されており、県内でも高い水準である。          ◇太陽光発電設置率は94.7%(18校/19校)と高い設置率である。          ◇教育委員会に指導主事を2名配置している。</p>

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

対象指標名称⇒ 児童・生徒数	(単位)	27年度	28年度	29年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D) (1枚目の a)	人	5,404	5,315	5,155	◇指標となる児童、生徒数が減ったため、コストが増加し、効率性が低下した。今後、少子化がさらに進むと予測されるため、成果を向上させながら、コストを抑える工夫が必要である。
*対象1単位当たり事業費 (1枚目 A/D)	円	386,226	242,202	243,416	
*対象1単位当たり人件費 (1枚目 B/D)	円	44,934	45,436	71,309	
*対象1単位当たりトータルコスト (1枚目 C/D)	円	431,160	287,639	314,725	

3.最終的な施策の総括 Action

(1)達成状況の分析(理由と改善点)

<p>◇H26年度に改訂した笛吹市学校教育ビジョンの具現化に取り組んでいる。          ◇教育環境の充実としては、H26年度に石和中学校の給食棟建替え、芦川小学校の体育館改築、H29年度に芦川小学校の擁壁工事等に取り組んだ。H28年度より、石和地区給食センターの建設準備に着手し、H31年度に供用開始を目指している。          ◇H24年度から保護者への不審者情報等の提供を行う学校安全安心メールを構築・運用し、活用している。          ◇小学校及び中学校の市費負担教職員配置事業において、教職員の配置を進め、学校教育に対する支援を図ってきた。また、小中学校の図書館に市独自に学校図書館司書を配置したり、生徒指導上困難な学校に学校安全サポーターの配置をおこなったりしている。今後も、児童生徒一人一人に応じた教育ができるように、さらなる教育環境の充実を図る必要がある。          ◇ふえふき教育相談室など教育相談の充実により、不登校児童・生徒へのきめ細かな対応を行っている。          ◇引き続き通学路の安全確保、施設の老朽化や時代の要望に伴う整備に取り組む必要がある。          ◇笛吹市いじめ防止基本方針をもとに、いじめ防止への対応を行っている。          ◇道徳性意識調査は道徳が教科化され、各校において評価を行うことからH26年度を持って終了した。          ◇老朽化が進む学校施設の修繕と計画的な改修が求められている。          ◇学校施設の構造物としての耐震化は完了しているが、窓ガラスや照明等非構造部材の耐震化を進める必要がある。</p>
---